

1. 日 時 平成27年11月11日(水) 午前9時55分～午前11時42分
2. 場 所 日光市役所第3庁舎3階3・4会議室
3. 出席者

【構成員】

日光市長 斎藤 文夫

教育長 前田 博、教育委員 川津 博子、教育委員 横山 真康(欠席)

教育委員 菅野 幸美、教育委員 高井 孝美、教育委員 手塚 美智雄

【出席を依頼する職員】

企画部長 大島 公一、教育次長 菊地 美榮

学校教育課長 久保 吉幸、生涯学習課長 井澤 雷二

文化財課長 新部 千代子、スポーツ振興課長 木野内 毅

中央公民館長 佐藤 英男、日光足尾教育行政事務所長 茅根 由美子

藤原栗山教育行政事務所長 八木沢 利裕

学校教育課長補佐 増淵 みゆき、生涯学習課長補佐 佐藤 育宏

生涯学習課主幹兼社会教育主事 武田 昌佳

生涯学習課文化振興係長 大橋 博信、生涯学習課文化振興係主査 佐藤 澄江

【事務局】

総合政策課課長補佐兼政策調整係長 本間 佳夫

政策調整係担当係長 斎藤 良介 政策調整係副主幹 北村 賢一

政策調整係副主幹 和田 直樹、政策調整係主査 星 善丈

【傍聴者】 0名

【報道機関】 0名

4. 内 容

(1) 開会(本間総合政策課長補佐)

(2) 市長あいさつ

本日は、お忙しい中、平成27年度第2回日光市総合教育会議にご参集いただき、ありがとうございます。

また、委員の皆様には、日ごろから当市の教育行政に対し、深いご理解とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。

さて、総合教育会議につきましては、本年の5月に第1回を開催させていただいたところであります。

この中におきまして、当市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の方針などを含めた教育大綱案をご協議いただき、その結果をもとに日光市教育大綱を策定いたしました。

本日は、この大綱に基づき進めております教育行政に係る平成28年度予算の編成方針などをお示しさせていただきます。

また、本年度策定を進めております日光市総合計画や全国的な課題である人口減少に向け

た対策である日光市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきまして、ご報告させていただきます。

併せて、当市の将来人口を推計した日光市人口ビジョンについてもご報告させていただきますが、当市の人口減少は、非常に厳しいものとなっています。

人口ビジョンによれば、このままの状況で人口減少が継続しますと、2060年の当市の人口は約36,000人まで減少することが示されています。

教育と関係が深い15歳未満の年少人口につきましては、2060年に約2,300人まで減少すると予測されます。

この厳しい状況のなか、人口減少に対応していくため、Uターンなどの定住施策や雇用促進に積極的に取り組んでまいります。教育分野におきましても、故郷を愛する教育をさらに推進していただくなど、これまで以上に市と教育委員会が連携していくことが重要です。

このようなことから、今後は、総合教育会議におきましても少子化に向けた対応などを協議させていただくことも考えてまいります。

本日用意させていただいた案件につきまして、慎重なるご協議をお願いし、ごあいさつとさせていただきます。

(3) 会議の運営事項について

(議事進行については、日光市総合教育会議運営要領第4条第4項の規定に基づき、市長が議事進行を行う。)

・非公開の発議について

⇒発議なし

・市長部局職員及び教育委員会事務局職員の会議出席について

⇒出席を許可

・運営要領に基づく議事録署名委員2名の決定について

⇒菅野委員、高井委員に決定

(4) 協議・調整事項

○平成28年度教育関連予算の概要について

・学校教育課長から、「資料1 平成28年度教育関連予算の概要について」に基づき説明し、平成28年度教育関連予算の概要にかかる承認を求めた。

⇒原案のとおり決定

【質疑応答】

<川津委員>

2ページ、給付型奨学金制度事業について、ある一定期間日光市に住んでいればとの説明があったが、一定期間とはどのくらいの期間を示すのか。

<学校教育課長>

期間については、他市町村の事例を参考に今後検討していく。

<手塚委員>

7ページ、栗山地域文化財調査・研究事業について、藤原栗山教育行政事務所所管となっているが、平成28年度に藤原栗山教育行政事務所は統合されるのではないか。

<文化財課長>

来年度、藤原栗山教育行政事務所は本庁に統合される。事務分掌については、今後詰めていく。

<市長>

機構改革を予定しているが、事業そのものは実施する。

<手塚委員>

6 ページ、日光フォトコンテスト開催事業について、目標の中に、地域に根ざした文化の伝承と記載があるが、毎年、他県の方が受賞されている。対策などはないのか。

<生涯学習課長>

毎年900点ほどの応募があり、レベルが高い大会である。今年度については、市制施行10周年記念事業として、日光市在住の方について10名ほど特別賞の枠を設けている。

<菅野委員>

1 ページ、ふるさと学習・体験事業について、学習内容は学習した地域に限定して事業を実施するのか。

<生涯学習課長>

わがまちきりぎり発見隊で学習した成果を発表する場として考えている。基本は、学習した地域の小学校において授業を行う。

<菅野委員>

学習した地域に限定するのではなく、日光市全体を知るためにも、他地域に広げて事業を実施していただきたい。

<生涯学習課長>

今後、日光学を体系化し、人材の育成を図り、小学校へのメニューの提供が可能になる。その中で地域限定ではなく日光市全域に広げることできると考えている。

<高井委員>

4 ページ、読書活動推進事業について、日光をテーマにした文学賞の創設はないのか。また、学校支援ボランティアについて、伝統芸能など、ボランティアの切り口で、若い人に体験してもらおう仕組みはないのか。

<生涯学習課長>

文学賞の創設については、読書活動推進計画のプロジェクトチームの中で検討していく。伝統芸能については、学校では邦楽スクールなど、学ぶ機会を設けている。また、文部科学省からの教室で盛んに実施している。さらに、地域のボランティアの方々が学校に出向いて茶道を指導している事例もあり、そういった事例は今後増えていくと思われる。

<川津委員>

2 ページ、学校ICT環境整備事業について、具体的な整備内容は。

<学校教育課長>

インターネットを使える環境はパソコン教室のみであることから、普通教室、特別教室についてもインターネットを使える環境を整備していく。その後、持ち運びの出来るタブレット、デジタル教科書、電子黒板を整備していきたい。平成28年度については、

校内LANについて、中学校を先に整備していく。

<高井委員>

学校のエアコンの整備についてはどうなっているのか。

<学校教育課長>

多方面から要望が出ている。今年度、普通教室の温度調査を実施する。今後、整備計画を策定し、設置を進めていきたい。

○第2期日光市生涯学習推進計画（基本構想・前期基本計画）素案について

・生涯学習課長から、「資料2 第2期日光市生涯学習推進計画（基本構想・前期基本計画）素案について」に基づき説明し、第2期日光市生涯学習推進計画（基本構想・前期基本計画）素案にかかる承認を求めた。

⇒原案のとおり決定

【質疑応答】

<川津委員>

26ページ、小学校における「総合的な学習の時間」での地域学習の実施、「日光みらい科」の実施において、授業で使っている資料はどういうものなのか。

<生涯学習課武田主幹>

小学校では、地域の史跡、伝統芸能など地域教材を使用している、中学校においては、調査学習が中心になり、それを地域に再発信する。両方とも先生の自作資料となる。

<川津委員>

7ページ、地域づくりのリーダーの育成について、目標値が現状値より減っている理由は。

<生涯学習課武田主幹>

目標値については、平成19年度計画策定時のものであり、平成26年に目標値を達成した状況となっている。

<菅野委員>

47ページ、放課後子ども教室推進事業について、学童保育とは別になるのか。

<生涯学習課長>

学童保育とは異なる。

<高井委員>

34ページ、グローバル化への対応、国際理解と協調の推進について、ALT9名で全校をカバーするのは難しい、強化する予定は。

<教育次長>

ALTの取組みについては、進んでいる。国の要綱が変更になる以前から小学校1年生からの英語教育を取り入れている。また、ALT9名については、それぞれ臨時の指導助手を配置している。さらに、夏休み期間を利用し小中学生の研修を行い、日光駅前で、観光客と直接、会話する体験などをしてもらう事業も行っている。

<教育長>

中学校において、ALTが入る授業時間は一人当たり年間12時間で、国の目安を達成している。また、小学校1年生から英語を教科として行っており、他市よりは充実し

ていると思われる。

○第3期日光市読書活動推進計画素案について

・生涯学習課長から、「資料3 第3期日光市読書活動推進計画素案について」に基づき説明し、第3期日光市読書活動推進計画素案にかかる承認を求めた。

⇒原案のとおり決定

【質疑応答】

なし

(5) 報告事項

○日光市総合計画（基本構想・前期基本計画）原案について

・斎藤総合政策課政策調整係担当係長から、「資料4・5 日光市総合計画（基本構想・前期基本計画）原案について」に基づき報告

【質疑応答】

<高井委員>

前期基本計画の2ページ、日光市の都市像 *feel so good!!* と英語にした理由は。

<斎藤総合政策課政策調整係担当係長>

基本構想の24ページ、日光市の都市像 *feel so good!!* の語句に込められた思いを記載している。「とても快適」「気分がとても良い」といった意味があり、日光市に関わる全ての人が嬉しくなり、さらに「!!」を付けることで、日光市に対し「感動」「驚き」を味わえるという意味が込められている。また、日光市は、国際観光文化都市として多くの外国人観光客を迎えることから、日光市のイメージを外国人に直接届けるなどの狙いを込めている。

<高井委員>

この言葉を選んだのはコンサルの方なのか。

<斎藤総合政策課政策調整係担当係長>

各地区で懇談会を開催するとともに、中学生・高校生から意見をいただき、その結果を踏まえ、市の40歳以下の若手職員で構成される組織で検討した結果、日光市の将来像として、その言葉が選定された。

○日光市人口ビジョンについて・日光市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

・本間総合政策課長補佐から、「資料6 日光市人口ビジョン、資料7 日光市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」に基づき一括報告

【質疑応答】

なし

5. その他

なし

6. 閉 会 午前11時42分終了